

# 岡部医院

院長 岡部 慎吾 Shingo Okabe

## 岡部医院

〒106-0031 東京都港区西麻布2-24-12  
TEL : 03-3407-0076 FAX : 03-3407-1744



西麻布は閑静な高級住宅街のイメージがある一方で、古くからこの街に住み、長く居を構えている方も大勢いる。岡部慎吾先生も幼少から西麻布の街に住み、この街とともに育ってきた1人である。若くして祖父である先代院長から医院を承継し、在宅医療に力を入れてクリニックを運営している。なぜ、地元の患者さんの家を訪問し、寄り添う診療を始めるに至ったのか。近隣の病院の先生方との連携について、また在宅医療への想いを伺った。

## クリニックの承継のきっかけ

### —先生のご略歴をお聞かせください。

私は1995（平成7）年に群馬大学医学部を卒業し、東京大学医学部附属病院の神経内科に入局しました。当時は、内科の研修医という立場での入局ではありましたが、その時点で神経内科を希望しておりました。その後、日本赤十字社医療センター（以下、日赤医療センター）、関東通信病院（現 NTT 東日本関東病院）、国立国際医



岡部 慎吾 先生

療研究センター、東京通信病院に勤務した後、東京大学神経内科に戻り、大学院に進学しました。勤務医の頃より当院を先代院長より承継し、大学院在学中も兼務しておりましたが、大学院卒業と同時に当院の院長として正式に独立しました。

### —医院を承継するに至った経緯を教えてください。

当院は先代院長である私の祖父が戦後間もない頃にこの西麻布の地に開業しました。1998（平成10）年に祖父は亡くなりましたが、祖父は亡くなる間際まで現役の医師として診療を続けておりました。当時、私は国立国際医療研究センターに勤務しておりましたが、家族として同居しておりましたので、祖父の日々の様子を見ており、本格的に承継する時期を考えておりました。祖父が亡くなった直後に承継届を提出し、正式に二代目の院長として医院を承継することになりました。

### —神経内科を専門とされるきっかけはどのようなものだったのでしょうか。

医学部の学生の頃は、成績は中ほどで「優秀」とは言えず、5、6年生時の臨床実習でも、指導教授から叱咤されることも多く、自信を失いかけていました。しかし、あるとき当時の群馬大学神経内科の教授であった平井俊